

「株式会社 姫路シティFM21」

第 65 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成28年3月26日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

3. 出席状況

1)委員総数 7名

2)出席委員数 5名

3)出席委員の氏名(敬称略、順不同)

大谷 昭仁 岩田 稔恵 大井 義雄 大野 幸一
宮本 節子

4)欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

岸田 直美 衣笠 愛之

5)会社側出席者氏名

寺尾 雅晴 (専務取締役 放送局長)
石本 康二 (常務取締役 営業部長)
小幡 博 (営業企画課 課長)
小林 寛幸 (放送総務部 編成制作担当)

4. 議題

1) 事務局説明

- ・ 放送局長より挨拶

2) 資料説明

- ① 平成28年1月～平成28年3月の取り組みについて
- ② 平成28年4月以降の取り組みについて

3) 試聴

- ① イオンスポーツスペシャル世界遺産姫路城マラソン2016
放送日:2016年2月28日(土) 08:00～15:30を試聴(抜粋・30分)

4) 意見交換

【試聴番組: イオンスポーツスペシャル世界遺産姫路城マラソン2016について】

- 岩田委員 私もゴール地点にいた。このゴール付近の中継を聴いて、当時の状況を思い出せたので、大変良い放送だと思う。天候も良く、条件もよかったのではないかな。
- 大野委員 途切れない応援が特色になっている。応援者のインタビューがあってもよい。
- 小幡課長 マラソンが始まってしまうと、中継班が移動できなくなる。
- 大野委員 夢前町などは、過去からマラソン大会を行っており、ノウハウをもっている。20km付近の夢前町、30km付近の八幡・青山など、動ける範囲で特徴ある応援の声もインタビューしてはどうか。
- 小幡課長 2回目ということであり、今年もさらにすごい応援だったと聞いている。
- 岩田委員 最初から最後のランナーまで、ずっと応援が続いていると聞いた。地区ごとの応援のほか、個人や家族単位のもてなしも盛んだったようだ。現場に行かないと伝わらない声もある。
- 大野委員 ある調査では、姫路城マラソンは全国で4位との評価だったそうだ。様々な大会を参考にして、1位になるよう努力すべきだ。コースには15地区あるが、皆同じことをしていない。他の地域と競争しながら、様々なことを行っている。
- 大谷委員長 村の祭りのような感じで、活気が出てきて盛り上がっているのではないかな。
- 大野委員 応援者の年齢層も幅広い。
- 岩田委員 約7時間程度の特別番組だったようだが、長時間、豊富な情報が流れているのはすごい事だ。
- 小幡課長 応援メッセージを放送する夢ブースは、マラソンサイトでの評価が大変高い。担当者が予想タイムを参考にしながら、ピンポイントで応援メッセージを放送できるように努力している。
- 寺尾局長 応援者へのインタビューについては物理的な制約もあり対応していないのが現状である。
- 大野委員 全てを網羅するのは難しいと思うが、エリア単位では移動も可能ではないかな。
- 宮本副委員長 約7時間はマラソンだけの放送になるのか？
- 小林担当 通常のコーナーのうち、必要なものについては放送している。休止できるものについては、翌週以降に順延している。広報ランナーのゴール部分を試聴していただいたが、途中で「リポーターが帰ってこないので一旦おわりましょうか」と言っていた。生中継で使える時間と通常のコーナーの放送時間を、その都度調整しながら判断をしているということである。
- 宮本副委員長 子供へのインタビューが大変上手い。子供相手によく聞きだしている。
- 小林担当 このリポーターは保育士の経験があり、子供が怖くないので飛び込んでいくことができる。扱いがわからないため子供が怖いというパーソナリティやリポーターは多い。
- 岩田委員 スタート前なのに、よくインタビューできている。
- 宮本副委員長 すごく自然でスムーズだ。普通の人ではなかなかできないと思う。夢ブースでのメッセージ紹介について、ランナーの速度にあわせて読むことは

すごいと思う。

岩田委員
小林担当
小幡課長
寺尾局長

ゼッケンを見て読んでいるわけではないのか？

事前の予想タイムを申告して頂いて、通過時間を予測して紹介している。

名前がわかればランナーの状況をサイトにより把握することも可能だ。

担当者によると、去年は申告タイムを半分に割って、通過時間を予測した。

今回は、走る人が後半にペースが落ちるため、独自の計算式を作ってタイミン
グを計ったようだ。昨年よりも精度が上がり、多くの人にメッセージが届いたこ
とで、マラソンのネット上で、夢ブースを評価するランナーが増えた。

小林担当

2回目ということで、FMゲンキもほぼ同じメンバーで対応したため、ノウハウを
さらに蓄積できた。中継については中継機の関係で2班しか用意できないが、
人脈をつくり、電話で数分インタビューさせていただくということであれば、対応
できるかもしれない。

寺尾局長

昨年に比べると中継のインタビュー担当者のレベル、スタジオ担当者のレベル
も高くなっている。他局が同じことをしようとしても、すぐには当社に追いつけな
いはずだ。

宮本副委員長

マラソンは映像の方がわかりやすいが、FMゲンキの放送は、よくイメージでき
る内容だった。

大井委員

ラジオ放送は駅伝の中継を聴いたことがあるが、状況を伝えるのは難しい。

小幡課長

サンテレビ・ラジオ関西は中継車を出して、実況を行っていた。FMゲンキは、
市民目線で、参加者の声を中心に放送している。ファンランの表彰者にもイン
タビューしたが、弊社の独自性と考えている。

【自由意見】

大井委員

4月より障害者差別解消法が施行されることになった。この機会に、何人かの
人に出演して頂いて、インタビューをするということはどうですか？

寺尾課長

飛び出せ！まちの元気人というコーナーがふさわしいと思うので、対応させて
いただく。

【事業報告等に関する意見】

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成28年3月29日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ(<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ(平成28年4月3日午後4時)」

以上